

原著論文

成人看護学実習における学生デモンストレーション —「個別性を活かした看護援助」に関する学び—

大木友美¹⁾、水谷郷美²⁾、城丸瑞恵³⁾

¹⁾ 昭和大学保健医療学部看護学科

²⁾ 順天堂大学医療看護学部

³⁾ 札幌医科大学保健医療学部看護学科

要 旨

A看護系大学では、成人看護学実習(周手術期)における学生の学びを深め共有するために、デモンストレーション「個別性を活かした看護援助」を実施している。デモンストレーションにおける学生の学びの実態を明らかにし、演習方法の検討を目的とし調査を行った。2010年9月から2011年1月に成人看護学実習(周手術期)を行った3年次102名を対象とした。デモンストレーション前に多くの学生が、術前・術後の看護ケアを実践する機会を得ていた。準備時間とグループ人数は適当であると答え、約9割の学生がデモンストレーションでの学びを実感していた。学びについてデモンストレーション必要性高得点群(n=32)とデモンストレーション必要性低得点群(n=46)で比較した結果、有意な差があった(p=0.030)。実施困難群(n=32)と実施簡単群(n=47)で、準備期間・時間と比較した結果、デモ実施困難群は、準備期間(p=0.002)と準備時間(p=0.031)に有意な差があった。デモンストレーションの必要性を感じている学生は、学びも大きく、デモンストレーションが難しいと感じている学生は、取り組みも早く時間をかけていることが明らかになった。

Key Words：成人看護学実習、看護学生、デモンストレーション、看護援助、個別性

はじめに

低侵襲手術の進歩に伴い患者の在院日数が短縮化し、周手術期看護における患者との関わりの時間は限られている。また周手術期の患者は日々の変化が大きく、看護の展開が速い。そのような背景のもと、経験が少なく未熟である学生は、周手術期実習において一般的な看護ケアは考えられても、患者の状態・状況に合わせた個別性を念頭に置いた関わりは難しい。A大学看護学科では、3年次の成人看護学実習(周手術期)における学生の学びを深め共有するために、15日間ある実習期間中の10日目に学内でデモンストレーション「個

別性を活かした看護援助」(以下、デモ)を実施している。そこでデモにおける学生の学びの実態を明らかにし、演習方法の検討を目的とし質問紙による調査を行った。

調査方法

1. 調査対象および期間

2010年9月～2011年1月に成人看護学実習(周手術期)を行ったA大学看護学科3年次102人を対象とした。

2. デモの方法(図1)

実習グループは、102人を5ブロックに分けて

いるため1回のデモ参加者は25人前後であり、その中で1つのデモグループが5～8人になるように振り分けた。学生が実習1～2週目に行った看護援助について振り返り、患者の個性について検討後、臨床場面に近い環境を実習室に設定し、援助場面が想像できるようにした。看護師・患者・ナレーションなどの役割を決めて看護技術・教育場面などを実施し、援助の場面やデモ実施方法の検討等、学生が主体となって行った。1グループ

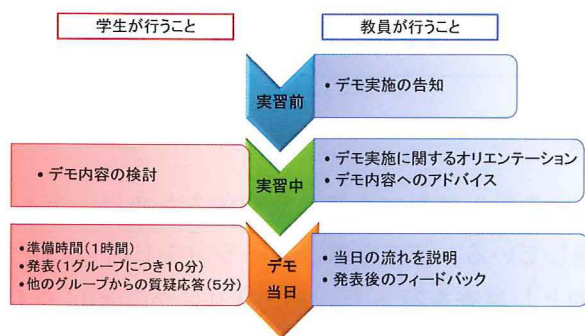


図1 デモ実施までの流れ

発表ごとに他のグループの学生からの質疑応答を設け、自分の受け持ち患者との比較や実習中に臨床指導者や教員から指導を受けた点などについて意見交換をした。

3. 調査の方法

成人看護学実習(周手術期)終了後に、デモ実施までの準備期間・時間、デモでの学び、困難さ、必要性、実習での活用等の6項目に関して、「全くそう思わない(1点)」、「そう思わない(2点)」、「どちらとも言えない(3点)」、「そう思う(4点)」、「とてもそう思う(5点)」の5段階リッカート型の選択肢に加え、自由記述を使用した無記名の質問紙調査を実施した。

4. 分析方法

SPSS statistics ver.20.0を用い記述統計および2群間の差にはMann-WhitneyU検定を用いて分析を行った。有意水準は5%未満とした。

5. 倫理的配慮

対象者に口頭と書面で研究の概要、参加の任意性、研究成果の公表、無記名であり成績に関係し

ないことを説明し、質問紙の返却を以って研究の同意とした。質問紙の回収は、実習終了後に、教務課に回収箱を設置し提出するものとした。データは、鍵のついた金庫に保管し、分析終了後シュレッダーを用いて破棄した。

表1 学生の実習とデモの準備状況

項目	群	度数	%
受け持ち患者の手術週	1週目	36	45.6
	2週目	33	41.8
	3週目	2	2.5
	1+2週目	1	1.3
	1+3週目	4	5.1
	2+3週目	2	2.5
	無回答	1	1.3
受け持ち患者人数	1人	71	89.9
	2人	7	8.9
	無回答	1	1.3
デモの準備開始	前の週	15	19
	2週日月曜日	4	5.1
	2週目火曜日	2	2.5
	2週目水曜日	54	68.4
	無回答	4	5.1
デモの準備時間	1時間未満	13	16.5
	1～2時間未満	25	31.6
	2～3時間未満	23	29.1
	3～4時間未満	8	10.1
	4時間以上	5	6.3
	無回答	5	6.3
メンバー人数は適当か	適当	68	86.1
	少ないほうがよい	11	13.9
場所は適当か	適当	74	93.7
	狭い	4	5.1
	広い	1	1.3
	無回答	1	1.3

結 果

有効回答数は79人(有効回答率77.5%)であった。

1. 学生の実習とデモの準備状況

表1に示すように、デモ前に多くの学生が術前・術後の看護ケアを実践する機会を得ていた。受け持ち患者数は概ね1人であったが、患者の入退院の状況によって2人と複数受け持つ場合もあった。デモの準備は、実施日間近に始める人が多かった。また準備時間とグループ人数については多くの学生が適当であると答えていた。

2. デモの学びと実習への活用、必要性

デモの学びと実習への活用、必要性を図2に示した。デモにおいて約9割の学生が学びを実感していたが、実習期間中にデモが必要であると答えた学生は32人(41%)であった。デモがとても必要であるおよび必要であると答えた学生をデモ必要性高得点群(n=32)、どちらとも言えないおよび必要ではないと答えた学生をデモ必要性低得点

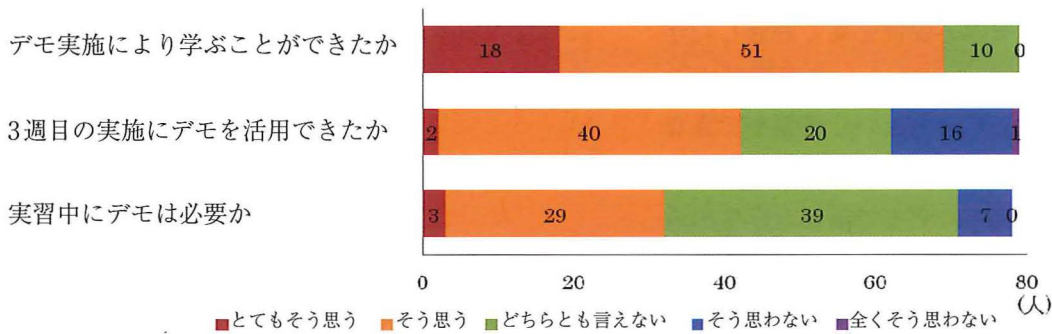


図2 学びと活用の学生評価

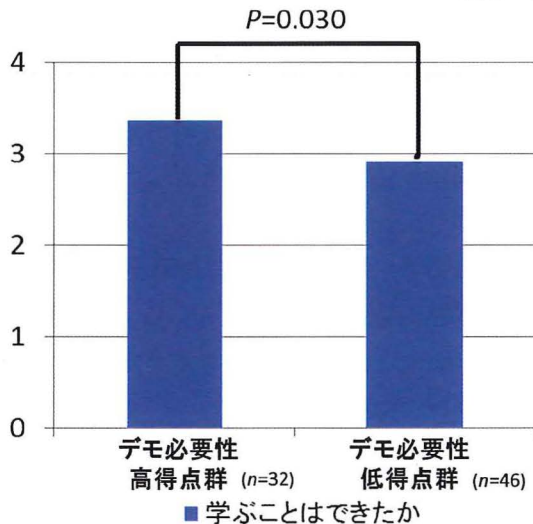


図3 デモ必要性高得点群、必要性低得点群における学びの関係

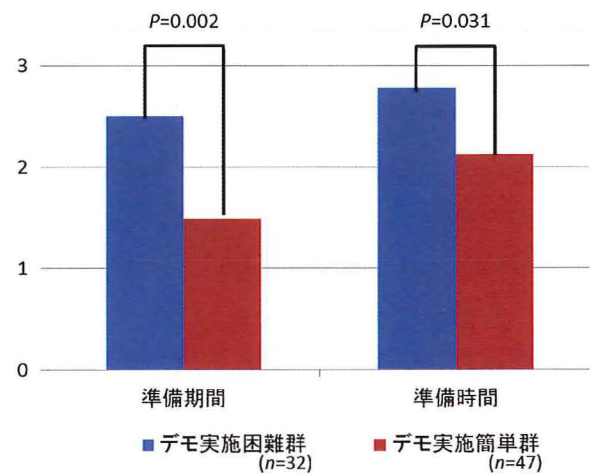


図4 デモ実施簡単群、困難群における準備期間・時間の関係

群(n=46)とし、比較検討した結果、図3に示したように2群間で有意な差があった(p=0.030)。

4. デモ実施の困難性について

デモ実施についてとても難しい2人(3%)、やや難しい30人(38%)、どちらとも言えない44人(56%)、簡単3人(4%)であった。とても難しいおよびやや難しいと答えた学生を実施困難群(n=32)、どちらとも言えないおよび簡単と答えた学生を実施簡単群(n=47)とし、準備期間・時間と比較検討した結果、図4に示したようにデモ実施困難群で、準備期間(p=0.002)・準備時間(p=0.031)に有意な差があった。

5. 自由記述の結果(一部抜粋)

「自分が見学・体験していない処置や援助をみることができて勉強になった。」「他の病棟での実習内容や看護ケアが理解できた」「他の班のデモを聞く、見ることで今後の実習に活かしていける

と思った。」「いろいろなやり方があり自分と違う考えも知ることができた。」「患者への個別性のあるケアの情報共有ができた。」「学生間の意見交換が有意義であった。」「自分だけでは気付けなかった学び・視点が増えた。」「他の人の考え方や視点、患者との関わり方が学べ、自分が看護を行うための参考になった。」「同じ援助をしていても注意する点や援助方法が違ったので学ぶことができた。」等があった。

考 察

デモ実施で学ぶことができたと評価した学生は、87.3%と大半を占めていた。デモの必要性を感じている学生は、学びも大きかったこと、デモが難しいと感じている学生は、取り組みも早く時間をかけていることが明らかになった。これは「自分だけでは気付けなかった部分を学べ、視点が増えた。」「自分と違う考えも知ることができた。」などの記述からも確認することができ、デモの学習

効果は大きかったと考える。しかし、実習への活用や実習期間中のデモの必要性を高く評価した学生が50%以下であったことから、実習期間中の準備時間の確保が難しく、満足いく準備ができなかった可能性もあるので、デモの実施時期を再検討する必要がある。実際にデモで演じた学生のみならず見学していた学生も、デモを通して実習で受け持った患者の個別性や看護援助についてグループや個人で時間をかけて振り返ることができていた。これは、臨地における経験を意味づけ、学生が自己の学習姿勢を見直す¹⁾ことになり、患者に対する洞察や援助の応用に肯定的に影響することが予測され、演習として効果的であることが示唆された。基礎教育課程では、知識として理解するだけでなく、さまざまな実習での体験を論理的に意味づける学習過程を踏むことで学習体験となり、思考過程が育成される²⁾ため、このような主体的な取り組みから得られた学びは、次の学び

へとつながる動機になり、さらなる主体的な学習につながるものである³⁾。今回の結果を受け、今後の実習に効果的な演習方法を検討していきたい。

引用文献

- 1) 金子潔子, 田村和恵, 松井英俊他: 成人看護学実習Ⅲにおける思考過程の学習経過の報告 — 反面的思考を適用して —, 看護学統合研究, 11 (1) : 20-26, 2009.
- 2) 中島優子, 山田豊子, 黒木美智子他: 成人看護実習における事例検討会の効果と課題, 京都市立看護短期大学紀要, 35 : 171-178, 2010.
- 3) 小田和美, 岩崎佳世, 小野幸子: 成熟期看護患者を対象としたロールプレイを通じて学生が表現した学び, 日本看護学教育学会誌, 15 (1) : 122, 2005.

A nursing student demonstration in the adult nursing practice. Learning about “individual nursing care that made use of characteristics”

Tomomi OHKI¹⁾ Satomi MIZUTANI²⁾ Mizue SHIROMARU³⁾

¹⁾ Department of Nursing, School of Nursing and Rehabilitation Sciences.
Showa University

²⁾ Juntendo University School of Health Care and Nursing

³⁾ Department of Nursing, School of Health Science Sapporo Medical University

Abstract

At the A nursing university, a demonstration carries out "individual nursing care that made use of characteristics" in adult nursing practice (the operation period) . I investigated it for the purpose of I made the actual situation of the learning of the student in the demonstration clear and examining a practice method. 102 students of the third grade who performed adult nursing practice (the operation period) in January, 2011 from September, 2010 were surveyed. Many students obtained an opportunity to practice a nursing care before and after the operation before a demonstration, and many students answered it that the preparations time and the number of people of the group were suitable. A student of approximately 90 % realized the learning of the demonstration. About learning as a result of having compared it two groups of "the demonstration need high score group" (n=32) and "the demonstration need low score group" (n=46) , there was significantly different (p=0.030) .As a result of having compared it with "the enforcement difficulty group " (n=32) and "the enforcement easy group" (n=47) about the period of preparations and preparations time, in the demonstration enforcement difficulty group was significantly different the period of preparations (p=0.002) and preparations time (p=0.031) . There was more learning the student who felt the need of the demonstration. In addition, preparations were early, and there was many it, and the student who felt a demonstration if it was difficult utilized it at time.

Key Words : adult nursing practice, nursing student, demonstration , individual nursing care, characteristics

